

Role of Aldosterone and Potassium Levels in Sparing Confirmatory Tests in Primary Aldosteronism

馬越, 洋宜

<https://hdl.handle.net/2324/7157405>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	馬越 洋宜
論文名	Role of Aldosterone and Potassium Levels in Sparing Confirmatory Tests in Primary Aldosteronism
論文調査委員	主査 九州大学 教授 江藤 正俊 副査 九州大学 教授 北園 孝成 副査 九州大学 教授 今井 猛

論文審査の結果の要旨

現在の臨床ガイドラインでは、血漿レニン値の抑制下で、血漿アルドステロン濃度 (plasma aldosterone concentration; PAC) が上昇している患者の一部では、原発性アルドステロン症 (primary aldosteronism; PA) の確認検査を省略してもよいとされている。しかしながら、これは優先順位の低いエビデンスであり、その際に血清カリウム値を使用するかについては一貫していない。今回申請者らは、PAにおける機能確認検査を免除する適切な設定について検討することを目的として研究を行った。

申請者らは、単一施設における後ろ向き横断研究として、2007年1月から2019年4月までに血漿レニン抑制下の高血圧症で、カプトプリル負荷試験 (captopril challenge test; CCT) を受けた327人の患者を対象とした。CCTの結果は、PAの診断に用いられた。主要評価項目はPAの確認におけるPACと血清カリウムの診断価値とした。

その結果、対象患者のうち、327例中252例 (77%) がPAと診断された。PACが 30ng/dL を超える61例の患者は、すべてPAと診断された。また、PACが $20\sim 30\text{ng/dL}$ の患者では、55人中44人 (80%) がPAと診断され、PACが $20\sim 30\text{ng/dL}$ の患者で自発性低カリウム血症を有する26例は、すべてPAと診断された。副腎静脈サンプリングによる片側性PAの割合は、 $\text{PAC} > 30\text{ng/dL}$ または自発性低カリウム血症でPACが $20\sim 30\text{ng/dL}$ の患者で、基準を満たさない患者よりも高かった (76% vs 17%, $P < 0.001$)。

結論として、PAにおける確認検査は、PAの典型的な特徴を有する患者には省略することができ、これらの患者は副腎静脈サンプリングで片側性PAの可能性が高いことが判明した。

以上の結果はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士 (医学) の学位に値すると認める。